ニカーヤにおける菩薩誕生記事の問題点

天野　信

はじめに：　初期経典における「菩薩」(skt. bodhisattva, pāli bodhisatta) は，「未正等覚者」，つまり成道以前のブッダの呼称として用いられる．この用語の成立は，比較的新しいと考えられており[1]，現存の初期経典で記される「菩薩」は，後代の書き換え，もしくは付加されたとする説も示されている[2]．この用語を，類型別に整理して調査・検討することは[3]，菩薩観の変遷を明確にするうえでも重要である．そこで本稿では，ニカーヤにおける菩薩誕生記事に着目する．そして，この場合の「菩薩」が，過去仏にまつわる事蹟を前提として用いられていることを論証する．その際，所属部派の異なる漢訳文献も併せて考察する．

1．ニカーヤにおける菩薩誕生記事[4]：　ニカーヤにおいて，一般に「誕生偈」と呼ばれる箇所を含む菩薩誕生記事が保存される経典は，*Acchariyabbhutadhammasutta* (*MN.* 123, *MN.* III pp. 118-124. 以下『希有未曾有法経』[5]) である．本経の菩薩誕生記事は，*Mahāpadānasuttanta* (*DN.* 14, *DN.* II pp. 1-54. 以下 *MAP*[6]) におけるヴィパッシン菩薩（過去仏の菩薩時代）誕生記事と同じ形態を持つ．現存資料で最古層に属する誕生偈は，この二経に含まれるものであると考えられている[7]．以下，この二つの菩薩誕生記事を比較・検討していく[8]．

『希有未曾有法経』の菩薩誕生記事は，アーナンダが，以前にブッダから聞いた話として語る設定となっている (*MN.* III p. 119)．本経の冒頭には，「ブッダが記憶する過去仏の事蹟についての比丘たちの談話 (*MN.* III pp. 118-119)」が，菩薩誕生記事の直前に設置されている．本経で注意すべきは，この導入部分である．この部分は，漢訳『未曾有法経』には存在しない．また，この部分に関して，注釈書 *Papancasūdanī* は，過去七仏それぞれの生まれ・姓について説明する (*Papancasūdanī* IV p. 167)．その内容は，*MAP* が記す過去七仏の生まれ・姓と一致する (*DN.* II pp. 2-3)．このことから，『希有未曾有法経』の導入部分は，*MAP* が記す過去七仏の事蹟と同内容の記述を継承していると考えられる．*MAP* の内容を概略すると以下の通りである．

〈1〉比丘たちの間で前生に関する談話が起こる．〈2〉それに答える形で，ブッダが比丘たちに過去七仏それぞれの生まれた時代，生まれ，姓，寿命，菩提樹，二大弟子，サンガの構成，侍者，父母，王都の名称を述べる（以下この箇所を「七仏の事蹟」と呼ぶ）．ここで一度，ブッダは比丘たちの前から去る．〈3〉再び現れたブッダは，第一仏であるヴィパッシン仏の伝記を比丘たちに語り始める（以下この箇所を「ヴィパッシン仏伝」と呼ぶ）．〈4〉最後に，浄居天の神々が，ヴィパッシン仏の事蹟をブッダに語る．

さて，上記〈2〉「七仏の事蹟」の直後，〈3〉「ヴィパッシン仏伝」が説示される直前に，『希有未曾有法経』の導入部分である「ブッダが記憶する過去仏の事蹟についての比丘たちの談話」と同内容の記述がある（*DN.* II p. 8）．その後で，「ヴィパッシン仏伝」がブッダによって説示される．その中にヴィパッシン菩薩誕生記事が存在する（*DN.* II pp. 12-15）．「ブッダが記憶する過去仏の事蹟についての比丘たちの談話」は，『大本経』にも存在するが（大正 1, p. 1b），ここで注意すべき点は，設置されている箇所である．『大本経』では，*MAP* と異なり，経典の冒頭，つまり「七仏の事蹟」の前に設置される．梵本 *Mahāvadānasūtra* も『大本経』と同じ構成を保つ（ed.Waldschmidt, Teil. 2, p. 64.）．「七仏の事蹟」のみを伝承する『七仏父母姓字経』『増一阿含経』もこの記述を保持するが（大正 1, pp. 159a-b, 大正 2, p. 790a），ここでも経典の冒頭に設置される．以上，『希有未曾有法経』と *MAP* が保存する菩薩誕生記事を，「ブッダが記憶する過去仏の事蹟についての比丘たちの談話」を中心に比較・検討した．そして，アーナンダは，以前にブッダから *MAP* のヴィパッシン菩薩誕生記事，もしくはそれと同内容の話を聞いて『希有未曾有法経』での菩薩誕生を語った可能性を指摘することが出来る．そこで問題となるのが，『希有未曾有法経』における「菩薩」が，ブッダの修行時代としての菩薩として語られたのか，過去仏の修業時代としての菩薩として語られたのかということである．この問題について，次章で検討する．

2.『七仏経』における菩薩誕生記事について：『希有未曾有法経』における「菩薩」の意味を考察するうえで，ここでは，『七仏経』に着目する．この経典は『毘婆尸仏経』と合わせると「大本経」類に相当する内容となる．問題の毘婆尸菩薩誕生記事であるが，これは「七仏の事蹟」と共に，『七仏経』に保存されている（大正 1, pp. 152b-154a. 誕生偈は含まない）．つまりここでは，「ヴィパッシン仏伝」が，菩薩誕生記事と，それ以降とで分断されることになる[9]．そして，『七仏経』にも「ブッダが記憶する過去仏の事蹟についての比丘たちの談話」が存在するが

（大正 1, pp. 152a-b），ここでは，*MAP* 同様，「七仏の事蹟」の直後，菩薩誕生記事の直前に設置される．本来，この記述は，吹田隆道氏が指摘するように，「七仏の事蹟」を始めるためのものであったと考えられる[10]．しかし後に，菩薩誕生記事が成立すると，*MAP* や『七仏経』の構成から考えて，「七仏の事蹟」と菩薩誕生記事の間に置かれる傾向が生じた可能性が高い．そのため，『希有未曾有法経』のように，菩薩誕生記事のみを保存する文献では，その冒頭に設置されることになるのである．このことから，「ブッダが記憶する過去仏の事蹟についての比丘たちの談話」を導入部分として用いる『希有未曾有法経』の菩薩誕生記事は，*MAP* が保存する「七仏の事蹟」を前提として伝承されたと考えられる．そうであれば，『希有未曾有法経』における菩薩誕生記事の「菩薩」は，*MAP* 同様，ヴィパッシン菩薩などの，「過去仏の修行時代としての菩薩」である可能性を指摘することが出来る．

まとめ：　以上，ニカーヤにおいて，誕生偈が含まれる菩薩誕生記事での「菩薩」は，「ブッダが記憶する過去仏の事蹟についての比丘たちの談話」を用いて，意図的に，「過去仏の修行時代としての菩薩」として編纂・伝承された可能性を指摘した[11]．このことは，漢訳「未曾有法経」の誕生記事では異なる内容が伝承されているため，パーリ上座部独自の形態であるのか，なお検討を要する問題である．以下，「ブッダが記憶する過去仏の事蹟についての比丘たちの談話」が，『希有未曾有法経』および「大本経」類の中でどの位置にあるのかをまとめておく．

＊『希有未曾有法経』　1.「ブッダが記憶する過去仏の事蹟についての比丘たちの談話」→2. 菩薩誕生記事

＊ *MAP*・『七仏経』　1. 七仏の事蹟→2.「ブッダが記憶する過去仏の事蹟についての比丘たちの談話」→3.「ヴィパッシン仏伝」

＊『大本経』・梵本 *Mahāvadānasūtra*　1.「ブッダが記憶する過去仏の事蹟についての比丘たちの談話」→2.「七仏の事蹟」→3.「ヴィパッシン仏伝」

＊『七仏父母姓字経』『増一阿含経』　1.「ブッダが記憶する過去仏の事蹟についての比丘たちの談話」→2.「七仏の事蹟」

---

1)　干潟龍祥『本生経類の思想史的研究』（山喜房佛書林, 1954）pp. 56-61．静谷正雄『初期大乗仏教の成立過程』（百華苑，1974）p. 30 参照．

2)　平川彰『初期大乗仏教の研究Ⅰ（著作集第三巻）』（春秋社，1989）p. 239 参照．

3)　杉本卓洲「パーリ仏典に見られる菩薩」『パーリ学仏教文化学』創刊号（1988）pp.

97-120 参照.

4)　本章の内容については，拙稿「『希有未曾有法経』における菩薩誕生記事の問題点」『龍谷大学大学院文学研究科紀要』27（2005 年 12 月発行予定）で詳しく論じてある.

5)　本経に相当する漢訳も存在する.『中阿含経』巻第八（32）「未曾有法経」，東晋罽賓三蔵瞿曇僧伽提婆訳（大正 1, No. 26, pp. 469c-471c）. 本稿では漢訳『未曾有法経』と表記する.

6)　対応する漢訳は『長阿含経』巻第 1「大本経」，後秦・仏陀耶舎・竺仏念訳（大正 1, No. 1 pp. 1b ～ 10c）. 本稿では，『大本経』と表記する. 他に以下の異訳と梵本が存在する.

・『仏説七仏経』1 巻，宋・法天訳.（大正 1, No. 2, pp. 150a-154a）

・『毘婆尸仏経』2 巻，宋・法天訳.（大正 1, No. 3, pp. 154b-159a）

・『七仏父母姓字経』1 巻，失訳.（大正 1, No. 4, pp. 159a-160a）

・『増一阿含経』不善品第 4 経，東晋僧伽提婆訳.（大正 2, No. 125, pp. 790a-791b）

E. Waldschmidt, *Das Mahāvadānasūtra* Teil. 1, 2.（AKADEMIE-VERLAG Berlin, 1953, 1956）

本稿では，パーリ本・梵本・『大本経』を総称する際，「大本経」類と表記する.

7)　阿理生「釈尊の誕生伝説―その諸問題の解明―」『戸崎宏正博士古稀記念論文集インドの文化と論理』（九州大学出版会，2000）p. 138, pp. 149-153 参照. また『大本経』，梵本 *Mahāvadānasūtra* にも誕生偈が存在する（大正 1, p. 4c, ed. Waldschmidt, Teil. 2, p. 90）. 梵本の復元に関しては，Takamichi Fukitaka “The Mahāvadānasūtra A Reconstruction of chapter iv & v”『仏教大学大学院研究紀要』13（1985）pp. 17-52 参照.

8)　誕生偈を持たない菩薩誕生記事は，*Aṅguttaranikāya* にも保存されている（*AN*. II pp. 130-131.）

9)　このことは，ヴィパッシン菩薩誕生記事が，本来，独立した経典であった可能性を示唆する. 岡野潔「七仏経と毘婆尸仏経」『印度学仏教学研究』33-1（1984）pp. 128-129 参照.

10)　吹田隆道「『大本経』に見る仏陀の共通化と法レベル化」『渡邊文麿博士追悼記念論集・原始仏教と大乗仏教（上）』（永田文昌堂，1993）pp. 271-273 参照.

11)　ブッダ・釈尊以外に，過去仏を菩薩と称することに関して，雲井昭善氏は「菩薩とは〈菩提をうることが確定している有情〉とする解釈が正しい」と指摘する. 雲井昭善「原始仏教における菩薩の観念」『西義雄博士頌寿記念論集　菩薩思想』（大東出版社，1981）p. 5 参照.

〈キーワード〉　ニカーヤ，菩薩誕生記事，過去仏

（龍谷大学大学院）

In this paritta ritual, monks invite many devas to the place of the ritual, and offer some words that include a request to devas. At the end of the ritual, monks cause the devas to return. This paritta ritual resembles rituals of Hindu pūjā in structure.

187. Some Problems of the Bodhisatta's Birth in the *Nikāya*

Shin AMANO

The purpose of this paper is to point out that the description of the Bodhisatta's birth scene including "the gāthā at birth" in the *Nikāya* is that of the former Buddha's birth scene. In the *Nikāya*, the Bodhisatta's birth scene of this type is contained in the *Acchariyabbhutadhammasutta* (*MN.* 123, *MN.* III pp.118-124. = *Acch*). It is similar to the Bodhisatta Vipassin's birth scene in the *Mahāpadānasuttanta* (*DN.* 14, *DN.*II pp.1-54. = *MAP*). If we compare the two birth scenes more minutely, we notice that the introductory portion in *Acch* which contains "the conversation about the former Buddhas among the bhikkhus" is related to the description of "the characteristics of the former Buddhas" in *MAP*. In addition, a parallel description of the *Acch* introduction is found in *MAP*, and its Sanskrit and Chinese versions, but the location of the parallel description is different. From this, we can comprehend that the introduction in *Acch* was originally the introduction to "the characteristics of the former Buddhas". Thus, it can be said that the Bodhisatta's birth scene in *Acch* is that of the former Buddha's in *MAP*, and that the Bodhisatta's birth scene including "the gāhā at birth" had been handed down as the former Buddha's birth scene in the *Nikāya*.

188. On the Interpretation of *svabhāva* by Middle Period Mādhyamikas

Mayumi NASU

The term *niḥsvabhāvavādin* was represented by *ngo bo nyid med par smra ba* and *rang bzhin med par smra ba* in later Tibetan Buddhism. The former is the Svātantrikas and the latter is the Prāsaṅgikas. In Bhāviveka's *Prajñ-*